

捕獲機能を有する新たな防護柵の開発

[分類] 普及 [所属名] 果樹試験場環境部・林業試験場経営環境部

[研究期間]

令和2～6年度

[背景とねらい]

果樹園等農地や集落、新規植栽地に設置する獣害防護柵は長距離にわたって設置されませんが、頻繁に管理することが難しく、土砂や落ち葉の堆積、風水害での倒木等により変形・破損も起こりやすいため、そのまま放置すると破損部からシカ等が農地に侵入します。

そこで、防護柵の破損部に「潜り込み式獣類捕獲用ゲート」（以下ゲート）と囲いワナを取り付けた、捕獲機能を有する防護柵「捕獲防護柵」を新たに開発し、シカを対象に捕獲に関する調査を行いました。

[研究の成果]

1. 果樹園に設置されていた防護柵の破損部を外し、ゲートを取りつけました。階段園地のため金属性囲いワナを用いることが困難であったことから、シカ防護ネットを活用して囲いワナを作成したところ（図1）、令和5年度に4頭、令和6年度に1頭捕獲することができました。ネット部の裾は、地面に対して垂直方向で固定するのではなくワナ内側へ窄めて設置することで、シカがネット際で暴れても隙間が生じにくく、逃走を防ぐことができます。
2. 新規植栽地の防護柵破損部が急傾斜でゲート等の設置が難しかったため、作業道上に捕獲機材を設置し、破損部からガイドネットで連結したところ（図2）、令和4年度に1頭、令和5年度に2頭捕獲することができました。なお、新規植栽地は日当たりが良いため、適宜ゲート部分の除草作業が必要です。
3. 人工林内において、立木を支柱として使用し、全長30mのシカ防護ネットを設置し、斜面下部に



図1 果樹園地での設置事例



図2 林地での設置事例①

ある作業道法面（傾斜 30°）部分にゲートを取りつけたところ（図3）、令和4年度に4頭同時捕獲、令和5年度に1頭捕獲することができました。ネット下部は内側に折り返すと捕獲個体の逃走を防ぐことができます。また、組み立て式囲いワナのゲート部分を組み込み、ロープと滑車により反対側から開閉可能にすると捕獲個体の誘導および処分が容易になります（図4）。



図3 林地での設置事例②

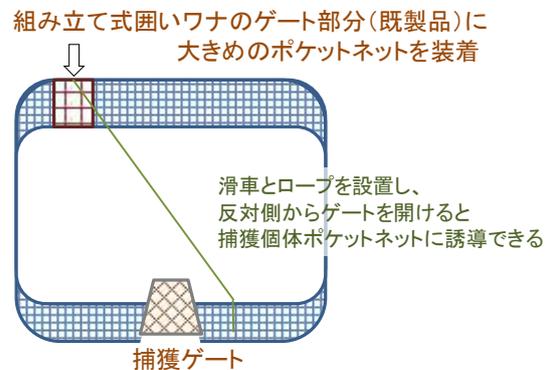


図4 捕獲個体処分のための誘導

[成果のポイントと活用]

1. 防護柵の破損部等に和歌山県で開発した「潜り込み式獣類捕獲用ゲート」と囲いワナを組み込むことで、防護柵に捕獲機能を付加することができました。特に、地際の破損部から潜り込んで作物を食べることを学習したシカは捕獲しやすいと考えられます。
2. 本ゲートは捕獲時に従来のワナのように扉を落下させる必要が無いので、シカに恐怖を与えるような大きな音は発しません。そのため、捕獲時にシカが暴れないことから、ワナ周囲に存在しているシカの警戒心を高めず、同じ地点で継続して捕獲を行うことができます。
3. 防護柵やワナ部に欠損等があると、そこからシカが園内へ侵入することで被害を拡大させる恐れがあります。そのため、設置後も柵の破損、ワナの不具合がないかなど点検・管理する必要があります。
4. 本プロジェクト研究成果集は、令和7年3月に発行され、農研機構のホームページに掲載されています。

(https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/chougai/wildlife/project/itaku-ycsb_j.html)

[その他]

予算区分：みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進(委託プロジェクト)現場ニーズの対応型研究「省力的かつ経済的効果の高い野生動物侵入防止技術の開発」
問い合わせ先：TEL:0737-52-4320